

<p>題 目</p>	<p>バングラデシュ再生産年齢女性の食物摂取および血清からの DDTs 摂取評価</p>
<p>本研究はバングラデシュの特に再生産年齢女性の DDT 暴露源を特定し、総暴露量を減少させることを目的として、彼らの血清と主要摂取食物中の DDT レベルを測定し関連性を検討した。</p> <p>DDT はヒト組織に持続的に蓄積する親油性化学物質であり、これに暴露されるとリプロダクティブ・ヘルス（生殖機能や生殖活動）、癌、子供の成長や発達障害に影響を与える。DDT は、食事、母乳、胎盤を通して体内に取り込まれ、長期間体内にとどまり続けるため、食物連鎖の過程でヒトに蓄積される可能性が高く、特にマラリア多発地域では公衆衛生上の重大な懸案事項となっている。</p> <p>バングラデシュでは、DDT は作物生産を増加させる農薬として 1950 年代半ばころから利用され始めた。さらに、1965 年からはじまった蚊撲滅プログラムでは、世界保健機関（WHO）によって提供された DDT が屋内用噴霧として使用された。しかし、DDT の生態学的影響から 1980 年代初めには DDT を農薬として使うことが禁止された。1992・3 年頃には、国内ですべての DDT 製品を使用することが禁止され、現在では、特定の地域で緊急事態が発生した場合にだけ使用される。</p> <p>本研究で主要食品中の POPs（DDTs、PCBs、Chlordanes、HCHs、HCBs、PeCBs）を測定したところ、DDT が最も高濃度で検出され、PCB、PeCBs、HxCBs の順に高濃度だった。特に肉および魚中の DDT およびその代謝産物（DDTs: <math>p</math>, <math>p'</math>-DDT, <math>p</math>, <math>p'</math>-DDD, and <math>p</math>, <math>p'</math>-DDE) の濃度が高かった。しかしながら、ヒトの血清中には、<math>p</math>, <math>p'</math>-DDE だけが検出された。統計分析の結果、これらヒト血清の <math>p</math>, <math>p'</math>-DDE レベルの上昇には牛肉および羊肉などの肉の消費が寄与していることが示された。</p>	